

台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を平常時に確認しましょう

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？

ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

必ず取り組みましょう

※ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどに住む方は、市区町村からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください

はい

災害の危険があるので、原則として自宅の外に避難が必要です

いいえ

※ 浸水の危険があっても
①洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側である
②浸水する深さよりも高いところにいる
③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です
※ 土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です

はい

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル3が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)

いいえ

警戒レベル3が出たら、市区町村が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル4が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)

いいえ

警戒レベル4が出たら、市区町村が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう

防災・減災! 家族会議をしましょう

1 家族との連絡方法について家族と話し合う

家族の携帯番号を書いたメモを財布などに入れて携帯し、子どもの園や学校の連絡先を確認しましょう

●第1手段→各自が NTT災害用伝言ダイヤル(171)にそれぞれの状況と避難先を録音し家族の伝言を再生する。詳細は 20ページをご覧ください

【録音】171→1 【再生】171→2

●第2手段→家族みんなの携帯にかける

()の携帯 (- -)
()の携帯 (- -)
()の携帯 (- -)

●第3手段→自宅の(場 所 :)に…
自分の避難先や状況を書いて貼っておく

●第4手段→親せき、知人の()宅に
電話(- -)
家族の状況を尋ね、自分の状況を伝える

〈非常時にはどれかひとつではなく、できる方法すべてを試す〉

2 待ち合わせ場所とルートの確認

(家族との待ち合わせ場所とルートの確認)

「家に戻る」ことが基本ですが、家が損壊した場合などに備えて待ち合わせ場所を決めておきます
事前に避難経路上の危険な箇所を「街歩き」し把握しておきます
一時避難場所の「〇〇スーパー前の公園でブランコ前」
指定避難所の「〇〇小学校の校庭の鉄棒」など…子どもにわかりやすい場所にします。

(指定緊急避難場所)を確認します

一時避難場所 → ()

指定避難所 → ()

避けた方がいいルートなどは下記に記入
()

避難所までたどり着くのが状況的に困難 → 各自で判断して近くの避難所へ
そのことを「NTT災害用伝言ダイヤル」に録音する

3 銀行口座などを夫婦で共有する

自宅が火災に遭うことも想定されるので、重要事項は控えておきましょう

「銀行の口座情報」、「生命保険」や「損害保険の証券番号」「健康保険の被保険者番号」などを「一覧リスト」にして夫婦それぞれが外出時に携帯しましょう。